



受講生大半が女性

市街地の空き 店舗創業塾

松阪市が中心市街地を元気にしようとして取り組む「松阪まちなか再生プ

大半を女性が占めた開業塾の受講者。日野町の市市民活動センターで

ラン」の一環で企画した「まちなか開業塾in松阪」の第1回が12日午後7時から、日野町の市市民活動センターで開かれ、女性12人と男性4人の計16人が参加した。

市は昨年度から「市商店街空き店舗等出展促進補助金」制度を作り、中心市街地の7商店街に限り、空き店舗等の改装費として最高150万円（補助率2分の1）、月々の家賃も5万円（同）まで補助している。今回はその延長線上で、初めて商売を始めようとする人を手引きしようと開講した。

講座は全3回。多気郡明和町明星出身で伊勢市で経営コンサルタント業を営む三田泰久さん（41）が講師。この日は「まちなか開業のいろは」と題して、開業を成功させるコツや、貸借対照表の読み方、事業計画書の作り方などを手ほどきした。

こつは「得意分野でナンバーワンになること」。「オンラインワンが望ましいのは言うまでもないが、それは難しいのでナンバーワンを目指す」と言い、結婚前は家具職人だった40歳の女性が家具店を開業するケースを例に、手作り家具に特化するこつでニッチ（狭間）のマーケットで1位になる道を推奨。ただ、商売のターゲットを狭めると客も少なくなるのでバランスが必要といい、さらにニッチな競合店にも注意を払う必要があるとい

う。受講者は大半が女性で、その中でも若い女性が目立った。市内の28歳の女性は現在アロマテラピーの店で働いているが、独立を目指しており、「何から始めていいのかわからなかったけど、ある程度資金も借りて、事業計画を立ててといたやり方が分かって参考になった」と話していた。